

東小移転後用地、候補に

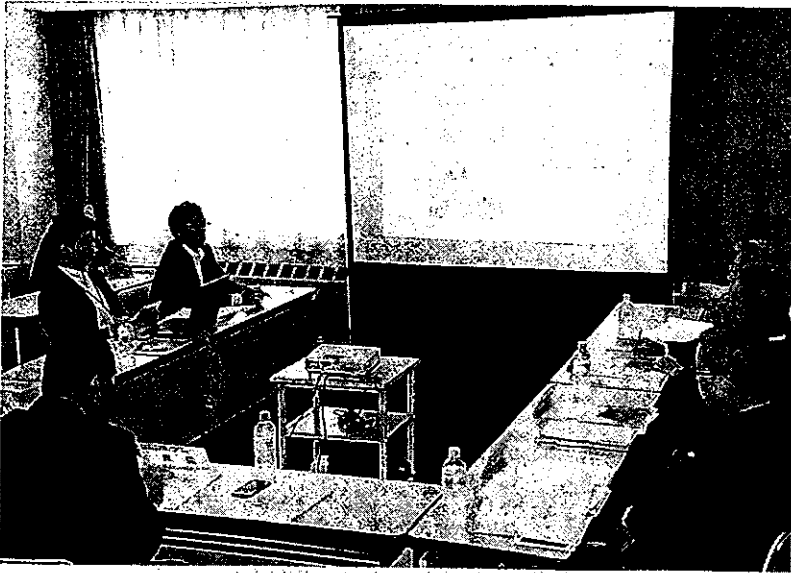
市民ホール建設検討委員会

苦 小 牧

老朽化した苦小牧市民会館の複合施設への建て替えの構想を考える苦小牧市民ホール(仮称)建設検討委員会の第5回会合がこのほど、同館で開かれた。市は新しい施設の建設候補地として、市内旭町の東小中学校移転後の用地を含める考えを明らかにした。

ればならないので、築45年たつ施設でも改修が難しい」と

説明。交通安全センターの免許更新講習の受講者が市内外から年間約2万2000人にとるとの報告を受け、委員から「いろんな人に足を運んでもらえるメリットがある」との指摘も出ていた。今回の議論を踏まえ、今後は鑑賞と活動、窓口、展示の四つの機能を柱にして複合施設の構想をまとめていく方針も決めた。



複合施設の在り方について議論する委員と市職員

市市民ホール準備室は、9月の市議会定例会で教育委員会が東小中学校を東中学校敷地内に移転する方針を示したことを受け、現在の東小校舎のある用地を「建設候補地に考えたい」と説明した。

この他、既存の公共施設との複合化候補になっている労働福祉センターと交通安全センター、科学センター、文化会館の4施設の各担当課の職員と委員が意見交換もした。

市民会館と4施設は築30年以上が過ぎ、設備の老朽化や耐震などで課題を抱えている現状で、担当課でも市民会館との複合施設として施設機能を残したい意向を伝えた。

科学センターを所管する市教委の担当者は「老朽化した学校の更新を優先させなけ

前回の議論で、委員から新しい施設の建設場所を早期に決めてほしいとの要望が出ていた。会合の冒頭、事務局の